

# 第12回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

## 前回ワーキングでの指摘と対応等

---

### 目 次

|                            |   |
|----------------------------|---|
| ■第11回ワーキンググループでの指摘と対応..... | 1 |
|----------------------------|---|

---

令和5年7月20日

## 第11回ワーキンググループ(R5. 3. 10)での指摘と対応 (1/2)

| 領域 | 委員からの主な意見  | 対 応   | 備 考 |
|----|--|---|-----|
| 山地 | <p><u>①崩壊地面積について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>裸地については、令和元年度から令和4年度にかけて、1998.67haが造林されており、裸地ばかりではない。造林面積データを提供する。</li> <li>状態評価が「良い状態」となっているが、実感と異なる。</li> <li>昨年の台風により、上椎葉ダムでは堆砂が進んでいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>提供いただいた造林面積データを確認し、今後の評価の参考にさせていただく。</li> <li>令和4年度は不土野の崩壊地は拡大しており、上椎葉ダム等で堆砂量も増加しているが、全ダムで評価しているためこのような結果となっている。</li> <li>今後の評価の参考にさせていただく。</li> </ul>   | —   |
| 山地 | <p><u>②土砂災害発生状況について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度データがとりまとめ中であっても、前年度ではなく今年度の実績で評価できないか。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>例年の評価方法を踏襲し、とりまとめ中のものは前年度評価とした。委員会に向けて年度末時点の実績に更新し再度評価するとともに、今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>  | —   |
| 山地 | <p><u>③流木処理実績について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流木処理実績や漂着物については、実感と差がある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>流木処理に関しては、ダム管理者の方で通砂前に流木を引き上げているが、台風後の流木はまだ残っており対応できていない。</li> <li>漂着物は、写真にあるとおり漂着は確認しているが、漂着物の処理実績で評価しているため、処理できていないものは、数字に表れていない。</li> <li>委員会に向けて、年度末時点の実績に更新し再度評価するとともに、今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul> | —   |
| ダム | <p><u>④支川の河床低下について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>堆積した土砂を元河床より低い箇所に入れてもらえれば、釣り場ができたりする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の参考にさせて頂く。</li> </ul>  | —   |
| ダム | <p><u>⑤放流・利水設備の機能障害について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真観測ではわからないが、流木がたまっているのは現地で確認しており、評価は悪くなると思う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>現地状況を確認されているということから、評価を「悪化傾向」、「悪い状態」に変更する。</li> </ul>  | —   |
| ダム | <p><u>⑥台風後の魚類生息状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>台風14号の来襲前は、山須原ダム上下流で魚影が見られるなど魚類の生息状況は比較的良いと思われたが、出水後は魚影が見られなくなってしまった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   | —   |
| ダム | <p><u>⑦台風14号の回復状況について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、一つのダムの上下流でもよいので台風14号後の回復状況を確認できるとよい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   | —   |
| 河道 | <p><u>⑧河川景観の変化について</u></p> <p style="text-align: center;">—</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度のWGで意見があった写真観測箇所の追加は、支川の「18親水公園(坪谷)」を耳川本川の福瀬地区へ変更等を検討していきたい。</li> </ul>   | —   |
| 河道 | <p><u>⑨生物の生息環境の評価について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウナギの生息場となる穴が土砂で埋まり、生息場がなくなりつつあることから、ウナギも調査対象にしていきたい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ウナギは個体数が少ないうえ、海の影響やシラスが少ないなど通砂以外の影響があるため評価が難しく、評価対象としていない。</li> <li>昨年度のWGで意見があった「五感を使った簡易検査」に大人の視点も入れることについては、東郷学園等の調査に地区の方に入っていただくことなどを検討していきたい。</li> </ul>  | —   |

## 第11回ワーキンググループ(R5. 3. 10)での指摘と対応 (2/2)

| 領域 | 委員からの主な意見  | 対 応   | 備 考 |
|----|--|---|-----|
| 河道 | <p><b>⑩治水安全度の評価について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>治水安全度の評価に無堤地区を追加していただきたい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、河道横断測量箇所、もしくは、写真観測箇所を無堤地区に追加する等を検討していきたい。</li> </ul>  |     |
| 河道 | <p><b>⑪台風14号の影響について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年出水は平成17年出水と同規模であるが、ダムの上砂移動について、通砂の目的に応じた検証をし、中間報告での提示が可能か。</li> <li>平成17年出水から、ある程度安定した環境が保たれてきたと感じていたが、令和4年台風14号による出水でその考えが一変した。</li> <li>治水事業が進み地域住民が安心していた中で、台風14号の災害が起こった。地域住民からすると、居住環境としては不安もあるため、住民が住んでいる場所を重点的にモニタリングしていただきたい。</li> <li>令和4年台風14号では濁水が長期化したため、濁水が早く緩和されるようにダム運用できないか。また、通さによって下流側の魚類の生息環境が悪化している地点もあるため、通砂ではなくダムで撤去する形にできないか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>土砂移動量はまだ整理できていないが、ほぼ想定通り流量に見合った土砂移動をしたと想定している。様々な調査を実施しているが、耳川流域の影響をすべて把握できているわけではないので、WGでご意見をいただきながら必要なものは継続して調査していきたい。</li> <li>今後の検討課題とさせていただく</li> <li>モニタリングによって不土野等の大規模な崩壊地が濁水の発生源ということが、わかってきている。大規模な崩壊地対策を図っていくことで対策の方向性が見えてくるものと考えている。今後も通砂の影響をモニタリングしながら、ダム運用を検討していきたい。</li> </ul> | —   |
| 河口 | <p><b>⑫生物生息生育環境の変化について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水質の基準が古いので今後は令和4年を基準にしてはどうか。</li> <li>漁獲量の方向性が「改善傾向」となっているが、操業日数が減ったことが要因の一つとなっている。今後副業や年齢を理由に減少することが想定される。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   | —   |
| 河口 | <p><b>⑬防災機能の低下について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>汀線の潮位による変動が大きいため、今後潮位補正を含めて検討することが望ましい。</li> <li>離岸堤ができたので、改善傾向にあるのではないかと考えられる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   |     |
| 河口 | <p><b>⑭親水空間の減少について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地写真から汀線の変化を把握できないか。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>現地写真のみでの評価は難しいため、地上写真は参考程度で考えている。</li> </ul>   | —   |
| 河口 | <p><b>⑮河口の堆砂について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洪水のピーク流量はH17と同様であるが、洪水期間が異なるため、同じ洪水規模として評価が難しい。日最大流量だけでなく、土砂除去量と比較する上では洪水全体のボリュームで評価した方が望ましい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   | —   |
| 河口 | <p><b>⑯評価対象の断面について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河口部の治水安全度向上は出水後に実施された浚渫の影響が想定されるため、本来は洪水直後の断面で評価すべきである。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   |     |
| 河口 | <p><b>⑰被害の評価について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被害がない近年と比較するだけでなく、H17出水と評価することが望ましい。H17と比較することで河川改修やインフラ整備の効果も評価することもできる。</li> <li>耳川の被害評価は内外水一体であるが、河川整備を評価する上でも内水と外水を分けて評価することが望ましい</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の評価の参考にさせて頂く。</li> </ul>   |     |